



Title	WHOニュース 8月／ 9月／ 10月
Author(s)	
Citation	目で見るWHO. 2020, 71, p. 24-29
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86556
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

8月

August

コンゴ民主共和国のエボラウイルス病に関するWHO、国連、ユニセフ、世界食糧計画の共同声明

8月1日はコンゴ民主共和国でエボラウイルス病が発生してから1年になります。過去1年間で2600人以上の患者が確認され、うち1800人が死亡しています。770人以上が助かりましたが、この感染症は容赦なく破壊的です。

世界母乳育児週間

子供を持つということは人生を一変させる贈り物であり、また大きな責任を伴うことでもあります。母乳育児週間にあたり、ユニセフとWHOは母乳育児を支援する政策を採用するよう政府や雇用主に求めています。今年のテーマは、「親に力を与え、母乳育児を可能にする」です。

東アフリカ共同体(EAC)：感染症対策

WHOはリフトバレー熱様の架空のウイルスが国境を越えて流行したという想定の下に、人、動物、命、農業、観光、治安、安全など地域経済の全般に亘って影響を受けるといったシナリオを描き、演習を実施しました。

世界の麻疹(はしか)の感染者数、昨年同期の3倍に

WHOに月次報告された中間集計(2019年8月現在)によると、1月から7月までの期間、182カ国から364,808件の麻疹の症例報告がありました。これは昨年同期と比べて約3倍となっています。

ポリオ根絶に取り組むアフガン女性の物語

2019世界人道デーに関するWHOの物語として、ポリオ根絶に取り組むアフガニスタン女性の活動が紹介されています。酷暑、厳寒の中、カブールの町の裏路地をワクチン接種のため家々を回っているDr.Fariba (カブール在住)など4人の活動が紹介されています。

太平洋諸島の国々の健康強化へのコミットメントを強調

WHOのテドロス事務局長は2週間に亘り太平洋諸島を訪問し、気候変動する国連のハイレベル会議を含め、グローバル社会が太平洋諸島の声を聴くことの重要性を指摘しました。

マイクロプラスチックのさらなる研究と規制強化を

飲料水に関する最新の知見をまとめた分析によれば、150マイクロメートルを超える大きさのマイクロプラスチックは人体に吸収される可能性が低いものの、ナノサイズの粒子の吸収は高くなる場合が考えられます。しかしデータはまだ十分ではありません。

補聴器、車椅子など、介護・支援技術へのアクセス改善の会議

WHOは介護・支援技術の世界的な需要と供給、利用上の課題などに関するグローバルな会議を開催しました。例えば、世界では7500万人が車椅子を必要としています。利用できるのは、そのうちの5～15%の人びとだけです。

本ニュースは毎月配信するメールマガジンに掲載した記事を、インデックスとしてご利用いただけるよう再掲載したものです。QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



マラリア根絶の課題に挑戦

現時点では健康関連の研究開発費のわずか1%以下しかマラリアに投資されていません。世界のマラリアの感染及び死亡率は2015年以降ほとんど変化しておらず、2030年にそれらを90%削減するとした「マラリア技術戦略2016-2030」の目標達成が難しくなっています。

コンゴのエボラ対策へ5000万米ドルを拠出

世界銀行はエボラの最前線での救命活動のためにWHOに対して5000万米ドルの拠出を発表しました。

コンゴで活かされている西アフリカの8つの教訓

西アフリカでのエボラ流行(2014～2016年)の教訓が現在のコンゴ民主共和国で活かされています。1)対応の核心を突いた研究、2)迅速な臨床検査、3)試験中のワクチン接種による救命、4)効果的治療法を見出すための活動(エボラの最適支持療法ガイドライン)など8項目にわたります。

疼痛管理ガイドラインの改訂

WHOは次の2つの文書の改訂プロセスを発表しました。1)規制薬物の入手可能性とアクセス可能性に関するガイダンス、2)子どもの疾病における持続的疼痛の薬物療法に関するガイドライン。WHOは米国におけるオピオイドの濫用に深い懸念を抱いています。

マラリア媒介蚊の侵入と拡散

ハマダラカ的一种であるAnopheles stephensiは都市部におけるマラリアを媒介する最も強力な蚊の一種です。2011年まで、この蚊は南・東アジアの特定の国々にとどまっていた。しかし2012年にはジブチ、2016年エチオピア、2017年スリランカ、2019年にはスーダンと拡散してきています。

今月のファクトシート改定

8月には以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。

<https://www.japan-who.or.jp/act/index.html>

・肺炎 <https://www.japan-who.or.jp/act/factsheet/331.pdf>

・筋骨格系症状 <https://www.japan-who.or.jp/act/factsheet/000Mus.pdf>

9月

September

最貧国の飲料水と衛生システムについて警告

WHOとUN-Water (国連水関連機関調整委員会) は、最貧国の政治システムの弱さと人的資源、資金の不足のために水と衛生サービスの提供ができないでいると警告しました。

欧州4カ国、麻疹排除の努力に危険信号

この数年、WHOの欧州地域麻疹および風疹検証委員会は、53か国のうち英国、アルバニア、チェコ及びギリシャの4カ国が麻疹根絶の状態ではなくなったと判断しました。

ヒトゲノム編集に関するグローバル登録を開始

WHOの専門家諮問委員会は、ヒトゲノム編集に関する研究を追跡調査するためのグローバル登録の第一フェーズを承認しました。

ホルモン避妊薬使用のガイドライン改訂

WHOはHIVの高いリスクを持つ女性の可逆的避妊法に関するガイドラインを改訂しました。これにはインプラント、子宮内避妊器具、プロゲステロン注射剤などすべてが含まれます。

WHO、健康研究への無料アクセスを加速するためcOAlition Sに参加

WHOは国連機関で初めてcOAlition S (コーリションエス, a coalition of research funders and charitable foundations) への参加を発表しました。これは公的資金による研究成果をオープンにアクセスできる媒体あるいはプラットフォームで出版できるようにすることを目的としています。

エボラ出血熱に対する支援約束の履行を要請

コンゴのエボラ出血熱は3000件に達し、WHOはすべてのパートナーの総力を挙げた支援を要請しました。人口8000万人のコンゴ民主共和国には、400万人以上の難民がおり、1300万人が食料危機になっています。

世界予防接種サミット開催

欧州委員会とWHOは、9月12日に世界予防接種サミットを共催しました。ワクチンで予防可能な疾患、およびワクチンに関する虚偽の情報の拡散への対策行動を推進することがこのサミットの目標です。

栄養を含む保健サービスで370万人を救う

WHOによると、人生の各段階における適切な栄養を今以上に健康サービスに組み込むことで、2025年までに370万人の命を救うことができると推定しています。一方で、子供も成人も肥満が増加しており、2016年には成人の19億人が過体重で、そのうち6億5000万人が肥満です。

子宮頸がん根絶に向けた取り組みの加速を

WHOは、東南アジア地域の国々に対して2030年までに子宮頸がんを根絶するよう、取り組みを加速するよう促しました。2018年には15万8千人が新規に罹患し、95,766人が子宮頸がん死亡しました。ブータン、モルディブ、スリランカ及びタイではヒトパピローマウイルスワクチンを国の政策として導入しました。

ワクチンに関する虚偽情報

ワクチンに関する虚偽の情報は世界の健康に対する大きな脅威です。WHOの正確で信頼できるワクチン情報が多くの人々に確実に届くようにするというFacebookの取り組みを歓迎します。

本ニュースは毎月配信するメールマガジンに掲載した記事を、インデックスとしてご利用いただけるよう再掲載したものです。QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



自殺：40秒に1人が死亡

WHOが自殺に関する報告書を発表して以来、この5年間で国として自殺予防に取り組む国は増えました(38か国)。しかしなお、40秒ごとに一人が自殺で死亡しています。自殺率は高所得国で最も高く、若者(15-29歳)の死因の第2位を占めています。

欧州地域の「健康格差」報告書

欧州地域(53か国)では、各国政府の取り組みにも関わらず、健康格差は拡大傾向にあります。健康格差の主要な要因として次の5つを挙げ、各国政府の取り組みが十分でないと指摘しています。1) 所得保障と社会保障、2) 生活条件、3) 社会資本と人的資本、4) ヘルスケアの質とアクセス、5) 雇用と労働条件。

気候変動から健康を守るよう世界の指導者へ要請

気候変動は世界で最も緊急を要する健康上の脅威のひとつです。WHOは2つのコミットメントへの合意を世界の指導者に要請しました。1) 大気汚染：2030年までにWHOの安全基準を満たすこと。2) 気候変動による健康への悪影響から人びとを保護するための財源の提供。気候変動に対し国際的財源の0.5%しか健康の課題に充当されていません。

医療における患者の危険性を減じる緊急行動を要請

危険な医療のために世界で毎年何百万人もの患者が被害を受け、低中所得国だけで年間260万人が死亡しています。社会的・経済的影響は世界で数兆米ドルの損失につながっています。

ケニア、ガーナ、マラウイでマラリアワクチン接種を本格的展開

世界初のマラリアワクチンの接種が本格的に開始されました。これは、アフリカで実施されたパイロットプログラムの結果を受けて本格的に展開するものです。ケニア、ガーナ、マラウイが参加し、生後6か月の子どもたちに接種されます。

国連のUHCに関する歴史的宣言を歓迎

UHCについて国連ハイレベルの政治宣言が採択されました。採択にあたり国連加盟国は、プライマリヘルスケアに関する4つの主要分野へ投資することにより、UHC実現に向けて前進することを約束しました。現在の進捗状況では2030年には最大50億人が医療を受けることができなくなるとされています。

コンゴ：エボラワクチンの包囲接種にゴーサイン

コンゴ民主共和国は、Johnson&

Johnsonが製造した実験的エボラワクチンの第2回接種を10月中旬から導入する計画を発表しました。このワクチン接種は56日間を空けて2回接種を行うもので、患者と濃厚接触した人々を対象にしています。

国連、新生児と妊婦の推定死亡率発表

新生児と妊婦の推定死亡率に関する報告書が国連から発表されました。2000年以降、子どもの死亡率は半減し、妊産婦の死亡率は1/3以上減少しています。しかし、世界ではなお280万人の妊婦と新生児が毎年死亡しています。

健康関連SDGs進展に向けて共同計画

12の多国籍機関が共同計画を開始国連総会において、健康関連のSDGsの進展を加速するため、12の多国籍機関が加盟国をこれからの10年間に亘って支援する共同計画を立ち上げました。

その他、以下のニュースが配信されています。

- ・世界保健統計2019の可視化
- ・心血管疾患リスクチャートを更新
- ・健康情報におけるソーシャルメディア
- ・プラットフォームの役割
- ・9月10日は世界自殺予防デー
- ・国連UHCハイレベル会議へのサポートを呼び掛け

今月のファクトシート改定

9月には以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。
<https://www.japan-who.or.jp/act/index.html>

- ・自殺 <https://www.japan-who.or.jp/act/factsheet/398.pdf>
- ・患者の安全(新設) <https://www.japan-who.or.jp/act/factsheet/000-6.pdf>
- ・妊産婦死亡率 <https://www.japan-who.or.jp/act/factsheet/348.pdf>
- ・新生児：死亡率を下げるには <https://www.japan-who.or.jp/act/factsheet/333.pdf>
- ・5-14歳の子どもの死亡率(新設) <https://www.japan-who.or.jp/act/factsheet/000-7.pdf>
- ・認知症 <https://www.japan-who.or.jp/act/factsheet/362.pdf>
- ・狂犬病 <https://www.japan-who.or.jp/act/factsheet/099.pdf>

10月

October

医療従事者の対応能力を検討

このフレームワークは、リハビリテーションや緩和ケアと共に、怪我や病気の予防、診断・治療を行うプライマリヘルスケアの従事者にとってUHCの目標を達成するために必要な能力を特定するものです。

医療従事者の認定と規制に関するグローバルシンポジウム

医療従事者の質と持続可能性を確保することはSDGsの重要な要素です。今回のシンポジウムでは医療従事者に関する認定と規則をレビューし、情報の共有を図ろうというものです。

風疹大幅減少も、子ども10人のうち3人はまだ保護されず

多くの国では予防接種により風疹と先天性風疹症候群が過去のものとなりましたが、ワクチン接種を中止すればすぐに復活する可能性があります。風疹ワクチンを予防接種スケジュールに含める必要があり、政治的および地域社会のリーダーシップと履行を必要としています。

コンゴ、エボラからの1000人目の生還者

エボラウイルス病から回復した1000人目の患者が自宅に戻りました。エボラ対策に取り組んでいる国連機関は、コンゴ

保健当局のリーダーシップと数千人の地元の医療従事者、パートナーのたゆまぬ努力を称賛しました。

FIFA (国際サッカー連盟) とWHOが健康に関する覚書締結

ポリオウイルスの国際的広がりに関する第22回IHR緊急委員会の声明

9月16日、IHR (国際保健規則) に基づき緊急委員会が開催され、ポリオウイルスの拡散リスクが、国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態(PHEIC) として継続していることを全会一致で合意しました。

WHO：視力に関する初めての世界レポート発行

世界では少なくとも22億人が視力障がい、または失明しており、そのうち10億人が必要な治療を受けていません。特に低所得国での高齢化、ライフスタイルの変化、治療を受けられないことなどが主な要因です。

出産中の女性の虐待

WHOによると、ガーナ、ギニア、ミャンマー、ナイジェリアの女性の3分の1以上が医療施設での出産中に虐待を受けています。若く、十分な教育を受けない女性ほ

ど虐待のリスクが高くなっています。それらは医療従事者による身体的暴力、言葉による暴力、差別、同意なしの医療的措置、無視などです。

グローバルファンドの拠出金

WHOはHIV、結核、マラリアとの闘いに今後3年間で140億ドルを拠出するとしたグローバルファンドのコミットメントを歓迎しました。毎年260万人以上が亡くなり国家経済に大きな影響を与えています。「2030年までに流行を終わらせる」というSDGsの目標への進捗も停滞しています。

気候変動と環境問題から健康を守る必要性について議論

マニラで第70回WHO西太平洋地域委員会が開催され、気候変動と環境問題による健康への影響について議論が行われました。この地域の諸国では気候変動によるマラリア、デング熱など、また海面上昇と急速な経済成長に伴う汚染によって年間350万人の死亡リスクが見込まれています。

薬剤耐性に関するカリキュラムガイド

WHOは英国と共同で、薬剤耐性に関する医療従事者向けのトレーニングカリキュラムガイドを発行しました。コミュニケーション、教育、トレーニングを通して薬

本ニュースは毎月配信するメールマガジンに掲載した記事を、インデックスとしてご利用いただけるよう再掲載したものです。QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



剤耐性について意識を高め、理解を深めようとするものです

世界結核報告書2019

300万人が未だ治療を受けられず、2018年に結核の診断と治療を受けた人の数は700万人で、2017年の640万人から増加しました。新規患者の発生は確実に減少しているものの、2018年には約1000万人が結核を発症しています。特に5歳以下の子供の結核について対策は不十分です。

UHCが国際的な主要目標に

列国議会同盟(Inter-Parliamentary Union: IPU)で、加盟各国の議会と議員が「UHCを達成するために考えられるすべての措置を講じる」旨の決議を行いました。各国のリーダーやコミュニティが、健康は人権であると同時に経済成長に必要であるということをますます認めるようになってきています。

エボラウイルス病のIHR緊急委員会声明

コンゴでは10月13日時点で3228人の症例が報告され、そのうち2123人が死亡しています。IHR委員会は近隣諸国の対応等もレビューした結果、「国際的に懸念される緊急事態(PHEIC:Public Health

Emergency of International Concern)」に該当するとして、事務局長に対して、暫定勧告の改訂版を発出するためのアドバイスをを行いました。

欧州医薬品庁(EMA)がエボラワクチンの条件付き販売承認

欧州医薬品庁が、rVSV-ZEBOV-GPワクチンの条件付き販売承認の勧告を公表したことをWHOは歓迎しました。WHO事務局長は、「世界初のエボラワクチンの認可は公衆衛生の勝利であり、世界中の多くの専門家が前例のないほどの協力をした証である」と評価しました。

国際鉛中毒予防行動週間

保健指標評価研究所では、2017年に鉛暴露により106万人が死亡したと推定しています。特に懸念されるのは開発途上国での疾病負荷が最も高く、また鉛暴露による子どもの知的障がい進展です。鉛含有塗料廃絶同盟によって設定された2020年目標の達成には大きなギャップがあります。SDGs3.9および12.4の目標達成に向け立法規制が鍵です。

WHO、ジェネリック医薬品の使用拡大に向けてIGBAと覚書を締結

WHOの必須医薬品リストの大部分は

ジェネリック医薬品です。IGBA (国際ジェネリック医薬品・バイオシミラー協会)との今回の合意は、手頃な価格で質の高い医療を受ける機会を増やすためにジェネリック医薬品とバイオシミラー医薬品の重要性を明確にしました。

野生型ポリオウイルス3型、根絶宣言

10月24日の世界ポリオデーにおいて、専門家委員会は野生型ポリオウイルス3型(WPV3)が世界で根絶されたと発表しました。これは天然痘、ポリオウイルス2型の根絶に続く、人類にとって歴史的な成果です。

デジタルヘルス専門家会議の初会合

WHOのグループは、データの保護・管理からデジタル技術の倫理的および公平な使用、デジタルヘルスソリューションによるコミュニティ支援など幅広いトピックを議論しました。

その他、以下のニュースが配信されています。

- ・高齢者のケアを改善するデジタルアプリ
- ・メンタルヘルスのためのコミュニティツールキットを発表

今月のファクトシート改定

10月には以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。
<https://www.japan-who.or.jp/act/index.html>

- ・子ども：死亡率を下げるには <https://www.japan-who.or.jp/act/factsheet/178.pdf>
- ・風疹(三日はしか) <https://www.japan-who.or.jp/act/factsheet/367.pdf>
- ・高血圧 <https://www.japan-who.or.jp/act/factsheet/000-4.pdf>
- ・アフリカ・トリパノソーマ症(睡眠病) <https://www.japan-who.or.jp/act/factsheet/259.pdf>
- ・リンパ系フィラリア症 <https://www.japan-who.or.jp/act/factsheet/102.pdf>
- ・失明と視力障がい <https://www.japan-who.or.jp/act/factsheet/282.pdf>
- ・結核 <https://www.japan-who.or.jp/act/factsheet/104.pdf>
- ・狂犬病 <https://www.japan-who.or.jp/act/factsheet/099.pdf>